

国語科における、情報を整理・検討し 伝えたい思いを明確にして表現する児童の育成 —— 学校図書館と情報シートを活用した学習を通して ——

長期研修員 横山 文子

《研究の概要》

本研究は、小学校国語科において「情報を整理・検討し、伝えたい思いを明確にして表現する力」を育てることを目指したものである。まず、図書館活用スキルを発達段階に応じて習得し、学校図書館の図書から情報を集める。集めた情報の中から伝えたいものを選択し、考え方の視点をもって整理・検討する中で、情報と自分の思いとのつながりについての認識が深まり、伝えたい情報と思いが明確になっていく。さらに、情報シートに記述された情報と思いを基にして構成を考えることにより、伝えたい思いを明確にして表現していく。

学校図書館と情報シートの活用を通して、整理・検討を繰り返すことが「伝えたい思いを明確にして表現する力」の向上に有効であることを、実践を通して明らかにした。

キーワード 【国語一小 情報の整理・検討 思いを明確にする 図書 情報シート】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-02 平成30年度 267集

I 主題設定の理由

急速に変化していく社会の中で、日々情報は増え、多様化している。子供たちの周りにも情報があふれ、情報端末を用いれば欲しい情報が簡単に手に入るようになってきている。社会の変化の一つとして ICTや人工知能（AI）の進化が挙げられるが、このような情報社会では、日常生活の多くの場面で、様々な情報を見極め探したり、比べたり、つながりがないかと調べたりしながら、考えを形成していくことが求められている。新小学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月）には「人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであることの再認識につながっている」と記されている。また「情報の扱い方に関する事項」が新設され、必要な情報を取り出し、情報同士の関係を分かりやすく整理することが、正確に理解し適切に表現することにつながると書かれている。平成30年度群馬県学校教育の指針には「情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだしたりして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した授業づくりを進める」と記されている。これらのことから、情報と情報との関係を捉え情報同士の関係を整理する力は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つであると考えられる。

平成29年度全国学力・学習状況調査の報告書によると、小学校国語科の指導改善のポイントとして「伝えたいことが分かるようにするため、具体的な事実を基にしたり、複数の内容を関係付けたりして必要な内容を整理して書くことは重要である」「具体的な事実と感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導すること」と示されている。県の考察においても「話や文章の趣旨を正確に理解し、情報を整理して書く力を伸ばすこと」が国語科の重点課題となっている。これらの課題を受けて、情報を集めて比較したり関係付けたりして考えを深めることを意識し、伝えたい思いを明確にして表現する力を目標とした授業改善を、日常的に行うことが必要であると考え。さらに、情報の扱い方について、学習指導要領の「読むこと」の言語活動例として、学校図書館などを利用し、図書などから情報を得て分かったことを説明したり報告したりする活動が示されていることと関係付けて、学校図書館を活用した言語活動を位置付けた授業づくりを計画的に行うことが、必要な情報を探して活用する力を付けるために有効であると考え。

学校図書館を、必要な情報を自ら獲得していく力を育む場として活用し、集めた情報の整理・検討を繰り返すことで、伝えたい情報を選択し伝えたい思いを明確にして表現する児童が育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学校図書館を活用して集めた情報について、情報シートを活用して整理・検討を行い、伝えたい情報を選択し、伝えたい思いを明確にしていく。さらに複数の情報シートに示された情報や思いを基にして構成を考えることにより、情報と思いのつながりの認識を深めながら、伝えたい思いを明確にして表現できる児童が育つことを、実践を通して明らかにしていく。

III 研究仮説（研究の見通し）

1 情報を集める力を身に付ける

低・中・高学年で身に付けたい図書館活用スキルを系統的に明らかにして習得させることにより、学校図書館から必要とする図書を探し、情報を集める力を身に付けることができるであろう。

2 伝えたい情報を選択し、思いを明確にする力を身に付ける

集めた情報から伝えたい情報を選び「比べて感想をもつ、比べて理由付ける、比べて関係付ける」という考え方の視点で整理・検討することにより「思い」が「情報」を得て具体的になり、伝えたい

思いを明確にする力が身に付くであろう。

3 伝えたい情報と明確になった思いのつながりを基に書く内容を構成し、表現する力を身に付ける
 複数の情報シートの「調べたこと（情報）」欄「考えたこと（思い）」欄のつながりを考えながら整理・検討をして書く内容を構成していくことにより、伝えたい思いを明確にして表現する力が身に付くであろう。

IV 研究の内容

1 文言の定義

(1) 「伝えたい思いを明確にして表現する」とは

「伝えたい思いを明確にする」とは、集めた情報から伝えたい情報を選択し、選択した理由を考えることにより、「思い」が「情報」を得て具体的で明確になっていくことである。また、「表現する」とは、明確になった思いが伝わるように「思い」と「情報」のつながりを考えながら書く内容を構成していくことである。自分の思いは、図書やメディアなどの客観的な情報や、自らの体験などの主観的な情報を基にして考える中で、具体的で明確なものになっていく。そのため、情報が無い中での思いは独断的で、広がりや深まりのないものになってしまう。そこで、情報シートを活用して、集めた情報から伝えたい情報を選択し、選択した理由を考えることにより、「情報」を得て「思い」を明確にしていく。本研究では、学習指導要領「書くこと」における「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」および「情報の扱い方に関する事項」の目標を基にして、情報を「整理・検討する際の考え方の視点」を明らかにした（表1）。情報を整理・検討する際には、考え方の視点を「比べて感想をもつ、比べて理由付ける、比べて関係付ける」から選ぶ。さらに、調べた複数の情報シートの「調べたこと（情報）」欄と「考えたこと（思い）」欄のつながりを考えながら整理・検討して書く内容を構成していく。このような過程を経て、伝えたい思いを明確にして表現できるようになる。

表1 情報を「整理・検討する際の考え方の視点」とそれに関わる指導事項の系統表

	整理・検討する際の 考え方の視点	構成の検討 (書くこと)	考えの形成 (書くこと)	情報の扱い方に関する事項
低 学 年	必要な情報を集め、 比較して感想をもち 伝えたいことを明確 にする	・自分の思いや考えを 明確にする ・事柄の順序に沿って 簡単な構成を考える	・語と語や文と文の続き方 に注意しながら内容の まとまりが分かるように する	・共通 ・相違 ・事柄の順序
中 学 年	集めた情報同士を 比較したり分類した り理由付けたりし て伝えたいことを 明確にする	・書く内容の中心を明確 にする ・段落相互の関係に注意 して文章の構成を考え る	・自分の考えとそれを支え る理由や事例との関係を 明確にする	・考えとそれを支える理由・事例 ・全体と中心 ・比較・分類の仕方 ・必要な語句の書き留め方 ・引用の仕方 ・出典の示し方 ・辞書・辞典の使い方
高 学 年	集めた情報同士を 比較したり分類した り関係付けたりし て伝えたいことを 明確にする	・筋道の通った文章に する ・文章全体の構成や展開 を考える	・簡単に書いたり詳しく 書いたりする ・事実と感想、意見を区別 して書く ・引用したり、図表やグラ フなどを用いたりする	・原因と結果 ・関係付けの仕方 ・図などによる語句と語句との関係 の表し方

(2) 「情報を整理・検討する」とは

「情報を整理・検討する」とは、情報を比べて「情報」と「思い」のつながりの認識を深めながら思いを明確にして構成していくことである。「情報を整理・検討する」ために、情報を集める・情報を選択する・情報を構成するの三つの過程を設定した。この三つの過程を通して、伝えたい情報と伝えたい思いを明確にして表現することができる。「情報を整理・検討するための三つの過程」について以下の表にまとめた（表2）。

表2 情報を整理・検討するための三つの過程

過程	○内容	・手立て
①集める	○学校図書館から必要とする図書を探して情報を集める。 ・学校図書館、情報シートの活用	・図書館活用スキル
②選択する	○集めた情報から伝えたい情報を選択し、それについて考え方の視点で考えることで「思い」が「情報」を得て具体的で明確になる。 ・情報シート「考え方の視点」の活用	
③構成する	○「調べたこと（情報）」と「考えたこと（思い）」のつながりを基にして、書く内容を構成していく。 ・複数の情報シートの活用	

2 手立ての説明「学校図書館と情報シートを活用した学習とは」

(1) 学校図書館の活用

学校図書館には、小学生の学習内容や発達段階に合わせた図書が集められている。そのため、出典が明らかで正確な情報を手に入れることができる。よって、学校図書館は小学生が情報を整理・検討する力を身に付けるためにふさわしい場であると考えられる。

必要な図書を集める力を身に付けるために、図書館活用スキルを習得させる。図書館活用スキルとは、低・中・高学年における読書の指導事項と図書館活用の指導事項をまとめたものである（表3）。国語科の指導内容との関連を考慮しながら、各学年で図書館活用スキルを習得させることにより、必要とする図書を探す力を身に付けることができる。

表3 図書館活用スキルの系統表

	読書の指導事項	図書活用の指導事項
低学年	読書に親しみ、いろいろな図書があることを知り、探したい情報を図書から見付けること。	・読みたい本を探す ・調べたい本を探す ・日本の話 ・外国の話 ・題名 ・筆者、作者
中学年	幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付き、複数の図書から自分の思いの基となる情報を探すこと。	・目次 ・索引 ・前書き ・後書き ・おくづけ ・本のつくり ・日本十進分類法 ・分類記号 ・図書記号 ・巻冊記号
高学年	日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付き情報を探すこと。	・引用 ・出典

(2) 情報シートの活用

情報シートとは、図書から集めた情報を記録し、それらの情報を整理・検討する中で、伝えたい情報と伝えたい思いのつながりを明確にするために活用するワークシートである(図1)。思いを表現する際、根拠となる情報を集める場面で幅広く活用できると考える。基本的には図書一冊につき一枚の情報シートを使うこととする。

項目として、テーマ・調べたこと・考えたこと・出典を書く欄、考え方の視点を選ぶ欄を設定した。考え方の視点は、発達段階や学習内容に合わせて教師が選択することが望ましい(表4)。集めた情報から伝えたい情報を選択する際は、考え方の視点を「比べて感想をもつ、比べて理由付ける、比べて関係付ける」から選び、情報について整理・検討することにより「思い」が「情報」を得て、具体的で明確になっていく。さらに、複数の情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄の記述を基にして「情報」と「思い」のつながりを確認しながら書く内容を構成することにより、伝えたい思いを明確にして表現することができる。

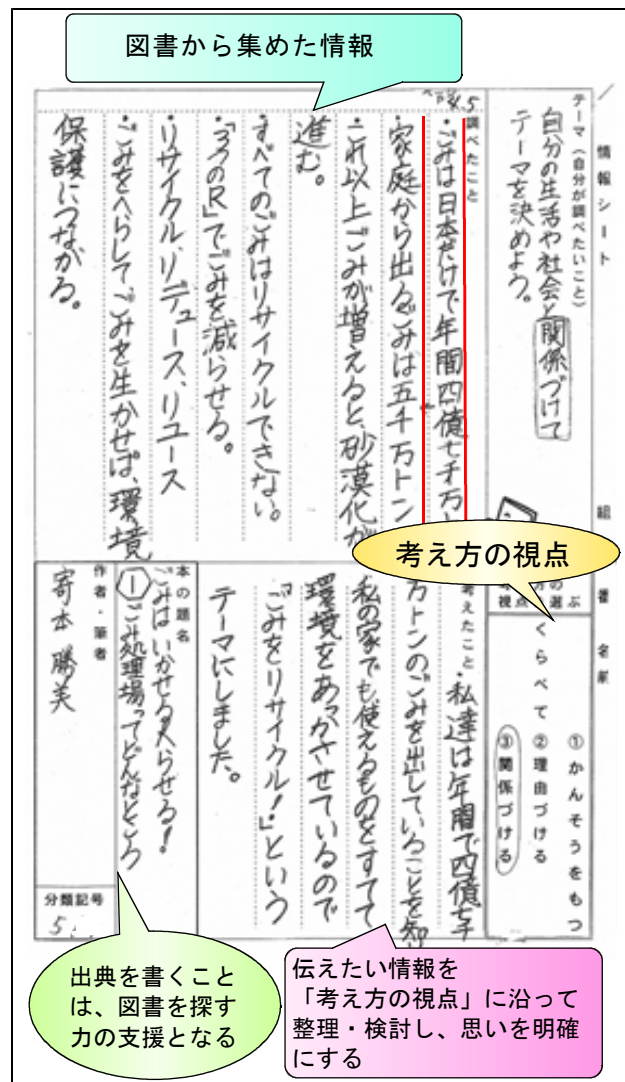


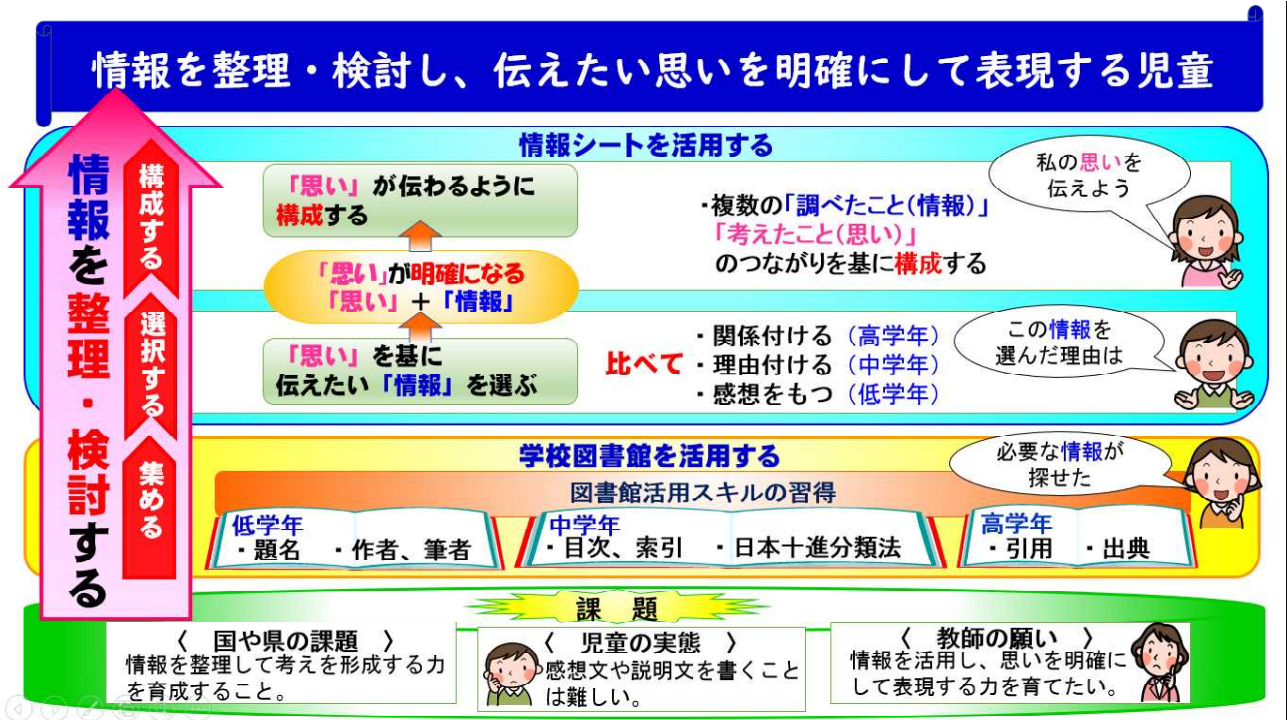
表4 発達段階や学習内容に合った考え方の視点

	考え方の視点	学年	学習内容
選 択 す る 過 程	比べて感想をもつ	低学年	情報を調べて思ったことや考えたことをまとめて思いを明確にする。
	比べて理由付ける	中学年	情報について、思いとのつながりを考えながら選んだ理由を明らかにして思いを明確にする。
	比べて関係付ける	高学年	広い視野をもち、情報と自分や生活や社会などとのつながりを考をながら選んだ理由を明らかにして思いを明確にする。

3 先行研究とのつながり

東京学芸大学教職員大学院による「情報スキル取得指導の在り方」では、学校図書館の学習・情報センターとしての機能を活用した授業実践の検討を行い、学習計画(つかむ→調べる→選択する→まとめる→発表する→ふりかえる)を作成し、学校図書館を学習の場に設定した授業を実践、分析することで指導の在り方を考察している。そこでは、教員が情報スキルの習得を意図して指導していくことの有効性が明らかになっている。課題として、低学年では6段階の学習計画を明確に区分することが思考を阻害させる場面があったこと、調べた情報を整理するワークシートの作成、授業者と学校司書とのつながりをコーディネートしていくことが挙げられている。

4 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 第4学年
期間	平成30年10月9日～10月26日 (全10時間)
単元名	興味をもったことを紹介しよう 「ウミガメの命をつなぐ」

対象	研究協力校 第2学年 ※指導案提供	研究協力校 第6学年 ※指導案提供
期間	平成30年10月29日 (全11時間中の1時間)	平成30年11月28日 (全6時間中の1時間)
単元名	写真を使って、説明しよう「さけが大きくなるまで」 ※集める、選択する過程を検証	説得力のある文章を書こう「意見文を書こう」 ※集める、選択する過程を検証

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1 集める	・発達段階に応じた図書館活用スキルが身に付き、必要とする図書を探し情報を集めることができたか。(2、4、6年)	・テーマに合った情報を集め、情報シートの調べたことを書く欄に集めた情報を書けているか。【情報シートの調べたことの欄】 ・アンケートの見取り【アンケート】
見通し2 選択する	・図書から集めた情報について、比べて理由付ける視点で整理・検討することにより思いが明確になったか。(4年) ・考え方の視点で整理・検討できたか。(2、6年)	・情報シートの考えたことの欄に、情報を選んだ理由を書き、思いを明確にできたか。【情報シートの考えたことの欄】 ・アンケートの見取り【アンケート】
見通し3 構成する	・複数の情報シートの「調べたこと」「考えたこと」の欄のつながりを考えながら整理・検討して構成し、明確にした思いが伝わる紹介文が書けたか。(4年)	・「調べたこと」と「考えたこと」とのつながりを考えて構成し紹介文を書いているか。【情報シートと紹介文の比較】 ・アンケートの見取り【アンケート】

3 抽出児童

A	B	C
目的をもち図書から情報を探すができ、情報を比べて考えをまとめることができる。整理・検討を繰り返すことにより、更に思いが明確になることに気付かせたい。	目的をもち図書から情報を探すができる。伝えたい情報を選んだ理由を考えることにより、情報と思いとのつながりが明確になることに気付かせたい。	テーマに合った図書を探すことを苦手としている。分類記号や題名で図書を探し、目次・索引でページを探す方法と、情報を箇条書きで書き表す方法を習得させたい。

4 評価規準

目 標		中心となる言葉や文を捉えて段落相互の関係を考えながら読み、興味をもったことについてキーワードや中心文を使ってまとめ、伝えたい情報と明確になった思いを紹介文に表すことができる。
評価規準	国語への関心・意欲・態度	説明文の内容に興味をもち、興味をもったことについての紹介文を書こうとしている。
	読む能力	紹介文を書くという目的に応じて図書から情報を集め、伝えたい情報を選択し、その情報についての思いを明確にしている。
	書く能力	「調べたこと(情報)」と「考えたこと(思い)」のつながりを考えながら、思いが伝わる紹介文を書いている。

5 指導計画(全10時間)

過程	時間	○ねらい・学習活動	支 援	評価項目
課題把握	1	○題名からキーワードを探し説明文の内容を捉える。 ・題名にある言葉や出現頻度が多い言葉からキーワードを探す。	・説明文の内容を把握するために、題名の中のキーワードについて考えさせる。 ・文章中からキーワードを探すために、出現頻度の多い言葉に着目させる。	・説明文の内容に興味をもち、絶滅の心配がある生き物の紹介文を書こうとしている。【関・意・態】
	1	○学習課題を把握し、紹介文を書く見通しをもつ。 ・題名から問いを作り、それについて考え、ウミガメが絶滅の危機にあることを知り、他の動物についても考える。	・説明文の主題を把握するために、題名から問いを作り、それについて考える。 ・目的意識をもたせるために、図書館に「命をつなぐレッドリストコーナー」を作することを伝える。	
単元の課題：「命をつなぐレッドリスト」動物の紹介文を作ろう				
課題追究	1	○図書で調べて、紹介したい動物を選びテーマを決める。 ・情報シートを活用し、図書室の絶滅危惧種や動物についての図書から紹介したい動物を探し、テーマを考える。 集める・選択する	・必要とする図書が探せるように、分類記号何番で探すことができるか考えさせる。 ・集めた情報を比べて伝えたい情報に線を引かせ、比べて理由付ける視点で考えを書かせる。	・図書から情報を集め、それらを比べて理由付ける視点で考え、紹介したい動物を選びテーマを決めることができる。 【書く】 (図書室)
	1	○紹介文の「はじめ・中・終わり」の構成と内容について例文を基に考え、要約の定義や要約の仕方を理解する。 ・紹介文例を基に構成を考え、要約の定義と要約の仕方について考える。	・要約の定義と仕方を学習させるために、教科書の紹介文例を基に考えさせる。 ・紹介文例の要約部分を見て、要約することのよさを考える。	・要約の定義と仕方について理解し、要約のよさについて考えることができる。 【読む】
	1	○教材文「ウミガメの命をつなぐ」から紹介したいことを決めて、大事な言葉や文を使ったり、言い換えたりして要約する。 ・情報シートに書き出した言葉や文を使ったり言い換えたりして要約する。	・要約する情報が整理できるように、情報シートに書き出した言葉や文の必要な箇所に線を引かせる。	・紹介したいことを考えながら情報を探し、書き出した言葉や文を基に要約することができる。 【読む】
	1	○説明文の中での写真・図・表の効果を考える。 ・説明文に写真・図・表が使われている効果を理解するために、写真・図・表から分かることについて考える。	・写真・図・表の効果を考えるために、それらから分かること、疑問に思うことについて考えさせる。	・写真・図・表について考え、説明文の中でのそれらの効果を理解することができる。 【読む】
	1	○テーマについての情報を図書から集め、整理・検討して思いを明確にする。 ・情報シートを活用し、図書からテーマについての情報を探し、伝えたい情報を選び、思いを明確にする。 集める・選択する	・図書室の図書を活用させるために、分類記号、題名、目次索引について確認させる。 ・集めた情報を整理・検討して伝えたい情報を選び、伝えたい情報に線を引かせ、情報を選んだ理由を比べて理由付ける視点で書かせる。	・図書で情報を集め、それを比べて理由付ける視点で考え、情報を選んだ理由を明確にすることができる。 【書く】 (図書室)

	2	<p>○情報シートの「調べたこと」「考えたこと」の欄を整理・検討して、「情報」と「思い」を基に「はじめ・中・終わり」の文章を構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確になった思いを伝えるために情報シートに集めた「情報」や「思い」を基に構成することにより、紹介文を書く。 <p style="text-align: center;">構成する</p>	<p>・紹介文の「はじめ・中・終わり」に書く内容を理解した上で、情報シートに記述してある「情報」と「思い」を基にして構成を考えさせる。</p>	<p>・はじめ・中・終わりの構成を考えて、伝えたい思いを明確にして紹介文を書くことができる。</p> <p style="text-align: right;">【書く】</p>
まとめ	1	<p>○紹介文を友達と読み合い、よいところを見付け、学んだことの振り返りをする。</p>	<p>・友達の紹介文のよいところが見付けられるように、内容や構成についての観点を示す。</p>	<p>・友達の紹介文のよいところを見付け、学んだことを振り返ることができる。</p> <p style="text-align: right;">【書く】</p>

VI 研究の結果と考察

「情報を整理・検討し、伝えたい思いを明確にして表現する力」を身に付けるために、学校図書館と情報シートを活用して、情報を整理・検討することの有用性を、見通しに沿って考察する。

1 発達段階に応じた図書館活用スキルが身に付き、必要とする図書を探して情報を集めることができたか（2、4、6年）。

(1) 学習活動の概要

2年生の実践では、関連図書の読み聞かせや図書の紹介を通して、分類記号4の自然分野の図書が置いてある棚を確認した。この学習は、次単元で生き物図鑑を書く際に生かすことができた。

4年生の実践では、図書館活用スキルとして、日本十進分類法、分類記号、図書記号、巻冊記号を学習し、分類記号の順に本が並んでいることを理解した。これにより、必要な図書を効率的に探せるようになってきた。また、目次や索引を活用して、必要な情報が書いてあるページを探すことができた。特に百科事典で調べる際には、索引の有用性を実感していた。

6年生の実践では、環境問題についての意見文を書く学習をした。テーマに合致する図書を選ぶ場合には、題名や目次や索引を見て、テーマに関連している図書を探す方法を実践を通して学ぶことができた。また、情報シートに図書情報を書き、出典を明らかにすることを確認できた。児童は再度同じ本を調べる際に、出典の記録を活用して図書を探すこともできた。

(2) 全体の様子から

4年生のアンケートにおいて「テーマに合った図書を探すことができましたか」という質問には71%の児童がよく探せた、29%の児童がだいたい探せたと答えており、全員がテーマに合った情報を探せたことが分かった（図2）。また「図書のどこを見て調べたいページを探しましたか」という質問には50%の児童が目次、27%の児童が目次と索引、10%の児童が索引と回答した（図2）。

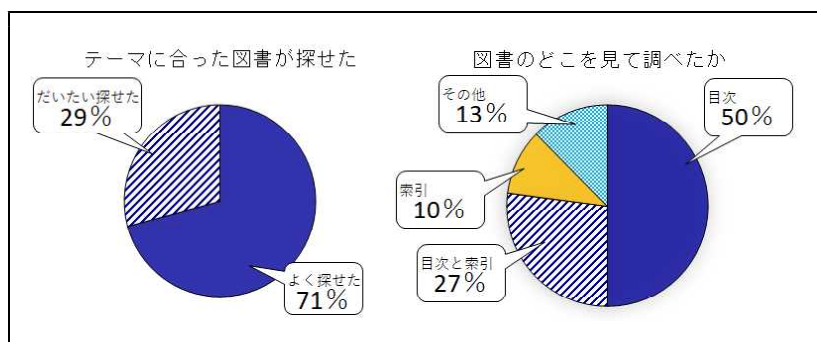


図2 図書館活用スキルの習得についての分析（4年生）

4年生の自己テーマ決定の際には、2冊以上の図書から情報を集めることを目標としたため、98%の児童が情報シートを2枚以上仕上げることができた。自己テーマに関する情報を集める際には、30分間という短い時間であったが1～2枚の情報シートを仕上げた。これらの活動を通して、一人あたり3～6枚の情報シートを仕上げることができた。6年生の実践では、25分間に69%の児童が

2枚の情報シートを仕上げることができた。また、必要となる図書を予測して公立図書館から図書を取り寄せておいたことは児童の興味・関心を高める上で有効であった。

複数の図書から情報を集めることを目標としたことにより、情報同士を比べて考える活動につながることができたと考える。必要と思われる図書を予測して公立図書館からも用意しておいたことは、調べる選択肢を多くすることになり、もっと調べたいという意欲の高まりにつながった。

(3) 抽出児童の様子から

抽出児童全員が3～4枚の情報シートを仕上げたことから、複数の図書から情報を採せるようになったことが分かった。図書のどこを見て調べたかというアンケートに抽出児童Cは題名と答えたが、実際は目次と索引を活用して調べていた。目次・索引という言葉とその意味が一致するように、授業や図書館オリエンテーションにおいて、用語について確認をしていく必要がある。

2 図書から集めた情報について、考え方の視点「比べて感想をもつ、比べて理由付ける、比べて関係付ける」で整理・検討することにより思いが明確になったか（2、4、6年）。

(1) 学習活動の概略

2年生の実践では、「さけのすごいところ、ふしぎなところを探そう」というテーマで、教科書「さけが大きくなるまで」の関連図書「ピリカお母さんへの旅」の読み聞かせを教師がした。その後、気付いた情報について発表し合い、情報シートを活用して「比べて感想をもつ」考え方の視点で整理・検討をして感想を書いた。

4年生の実践では、テーマを決める1単位時間、テーマに関する情報を集める1単位時間に、それぞれ2冊の図書から情報を集めることを目標とした。それぞれの時間において、2枚の情報シートを「比べて理由付ける」考え方の視点で整理・検討をして、伝えたい情報を選択し伝えたい思いを明確にしていった。

6年生の実践では、身近な環境に関する意見文を書くためのテーマを決定するために、2冊の図書から情報を集めることを目標とした。集めた情報について「比べて関係付ける」考え方の視点で整理・検討をして、情報を生活や社会と関係付けてテーマを決定した。

(2) 全体の様子から

2年生の実践では、読み聞かせを聞いた後に、さけのすごいところや不思議なところを発表し合い、その内容を情報として「見つけたこと」欄に書いた。そして、それらの情報について「比べて感想をもつ」考え方の視点で整理・検討したことを「考えたこと」欄に書いた。61%の児童は、共有した情報を基にして「さけは心が優しい生き物なんだ」「お母さんは子どもに対する愛情がたくさんあると思う」などと、思いを具体的に「考えたこと」欄に記述していた（図3）。39%の児童は見付けた情報とテーマにある「すごい」「不思議」という言葉とを組み合わせる感想を書いていた。情報シートを活用して、関連図書の内容について考えることにより、さけの子孫を残すための努力について気付くことができ、考えが深まったと思われる。今回は、読み聞かせから情報を集めるため、「調べたこと」欄を「見つけたこと」欄に変更した。

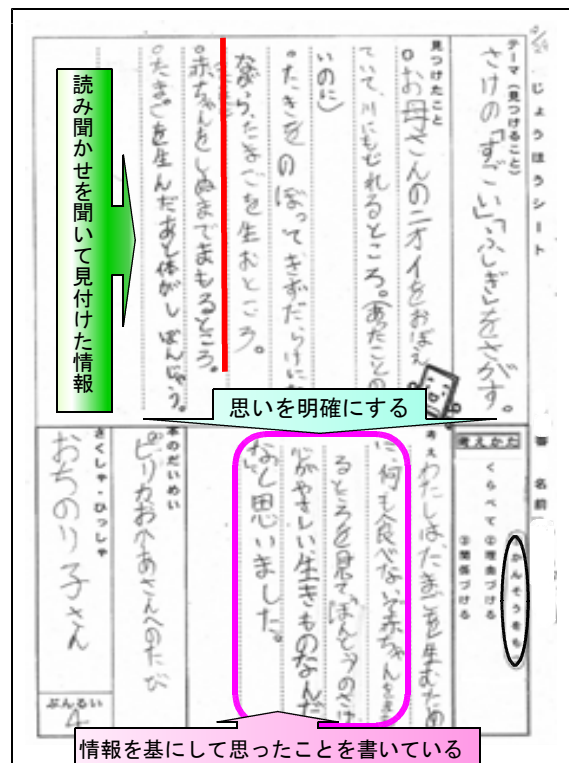


図3 2年「比べて感想をもつ」考え方の視点の情報シート

4年生の実践では、情報を選択する過程で伝えたい情報に線を引かせたが、自分が探した情報への思い入れが強く、調べたことのほとんどに線を引いてしまった児童もいた。そこで、もう一度整理・検討させ、一番伝えたい情報を選んで線を引かせた(図4)。情報シートを基に整理・検討してテーマを決める時間には100%の児童が理由を明らかにしてテーマを決定することができた。集めた情報から伝えたい情報を選ぶ時間には、94%の児童が伝えたい情報を選んだ理由を明らかにして決定することができた。情報シートの「考えたこと」欄には、考え方の視点「比べて理由付ける」で整理・検討したことで、情報と思いの間を行ったり来たりしながら思いが具体的で明確になっていった記述が見られた。

図4 集めた情報を「比べて理由付ける」考え方の視点で整理・検討したシート

4年生のアンケートにおいて、「情報シートから紹介文に書きたいことを選ぶことができましたか」という質問には、よく選べた、だいたい選べたと肯定的に答えた児童が98%いた(図5)。このことから、考え方の視点に沿って、伝えたい情報を比べて理由付けて整理・検討したことは、思いを明確にするために有効であったと考える。児童の感想には、集めた情報から自分の好きな動物を選んでよかったというものがあった。自分が調べた情報からテーマを決めることは思いを大切にすることになり、意欲につながったと考える。

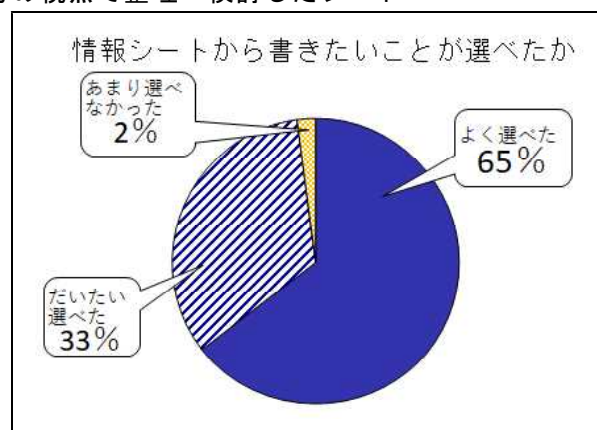


図5 情報の活用についての分析(4年)

6年生の実践では「比べて関係付ける」視点で生活や社会と関係付けて情報を整理・検討してテーマを決定した(図5)。この過程を通して94%の児童がテーマを決定することができた。集めた情報を比べるだけでなく、生活や社会と関係付けることで、より広い視野をもち多面的に考えテーマが決定できたと思われる。「比べて関係付ける」考え方の視点を選ぶときは、学習内容に合わせて何と関係付けることが適切かを教師が予め考えておく必要がある。

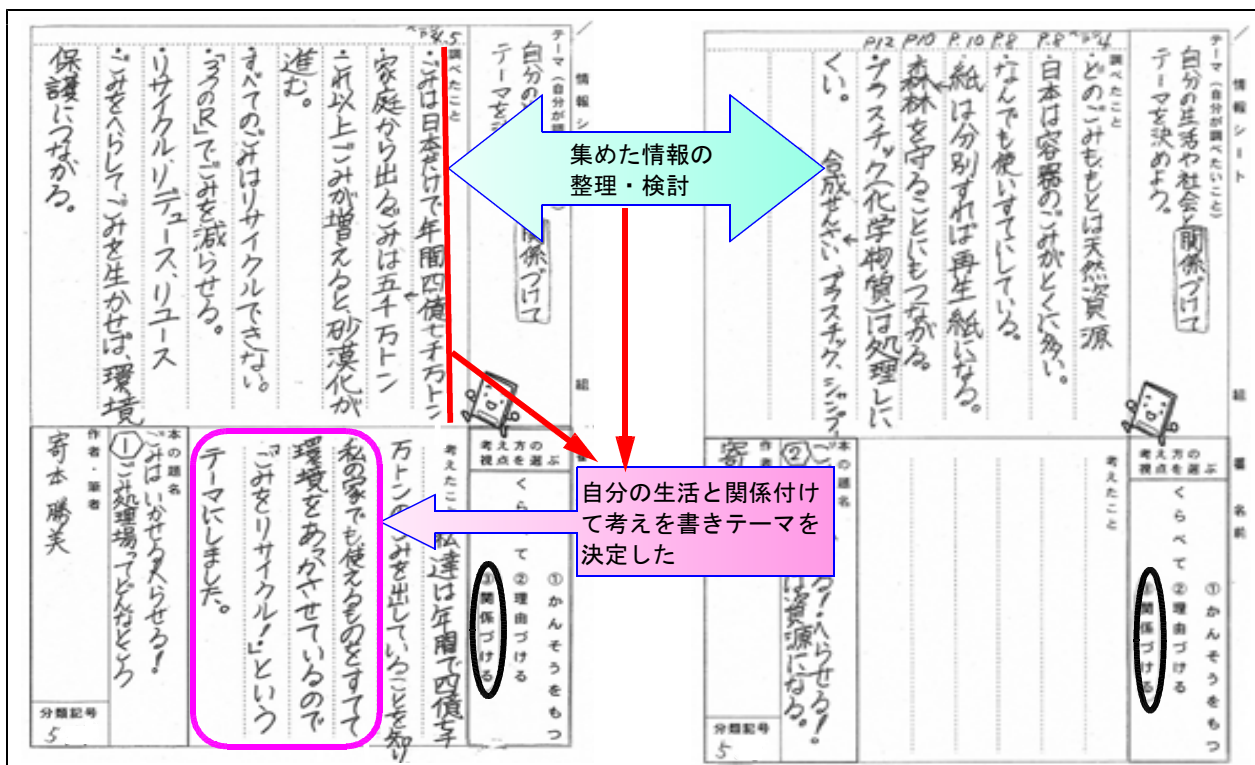


図6 6年「比べて関係付ける」視点の情報シート

これらの2、4、6年生の実践から、「比べて感想をもつ、比べて理由付ける、比べて関係付ける」考え方の視点を学年に合わせて選ぶことにより、思いが情報を得ることで具体的に明確になっていくことが分かった。学年に合わせて、考え方の視点を選ぶだけでなく、学習する内容に合わせて選ぶ場面もあると考えられる。

(3) 抽出児童の様子から

抽出児童の情報シートから、自分が調べた情報について整理・検討することにより、願いなどの思いが生まれることが分かった(図7)。そして、アンケートの「情報シートから書きたいことが選べたか」の問いに、三人とも選べたと答えていたことから、情報を整理・検討して情報を選んだ理由を明らかにすることは伝えたい思いを明確にするために有効であることが分かった。

抽出児童	テーマ決定時に整理・検討した考え(考え方の欄の記述)	伝えたい情報決定時に整理・検討した考え(考え方の欄の記述)	情報シートから書きたいことが選べたか(アンケートより)
A	トラは前までは10万頭だったのに、3200頭に減ってしまったから、 <u>私たちが責任をもって増やさないと</u> いけない。トラはとても強く、狩りの仕方が頭を使っているから調べました。	ぼくは、トラの生活と絶滅しそうなわけを <u>紹介したいです</u> 。理由は、 <u>みんなにもトラのことを知ってほしいから</u> です。	だいたい選べた
B	なぜ600頭もいなくなったか気になったからです。アザラシの子育てや休憩をする場所を <u>取っては</u> いけないことを伝えたいです。	海を汚すのは人間だから、 <u>もう少し考えた方がいい</u> と思いました。アザラシを <u>増やしたい</u> と思いました。	よく選べた
C	ライオンの群はプライドとよばれることを知ったので <u>調べたい</u> と思ったから。	群はプライドとよばれることを <u>紹介したい</u> からです。	だいたい選べた

図7 抽出児童の振り返り①

3 複数の情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄のつながりを考えながら整理・検討して書く内容を構成し、明確になった思いが伝わる紹介文が書けたか。

(1) 学習活動の概要

テーマを決める1単位時間、テーマについて調べる1単位時間に書いた複数の情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄を活用して、明確になった思いが伝わるように紹介文を書いた。まず、紹介文の「はじめ」「中」「終わり」に書く事柄を確認した。次に、情報シートの記述に線を引いたり、言葉を付け足したり、情報シートを並べ替えたりしながら紹介文の構成を考えた。

(2) 全体の様子から

情報シートに書いた「調べたこと」「考えたこと」欄に書いた「情報」や「思い」を基にして紹介文を書いているか調査したところ、100%の児童がそれらを基にして書いていた。以下に、情報シートの記述を基にして紹介文を書いている例を示す(図8)。

図8は、児童が作成した情報シートとそれに基づいて書かれた紹介文の例を示しています。情報シートには「調べたこと」「考えたこと」欄があり、トラに関する様々な事実が記述されています。紹介文は「はじめ」「中」「終わり」の構成で書かれており、情報シートの内容を基にして明確な思いが伝わるようになっています。

情報シートからの引用例:

- トラはシカやヤマネ、鹿、ウサギ、イノシシを食べていて、ほかには魚、昆虫なども食べる。
- トラは、インド、中国、インドネシアで生息している。
- トラは、シカや牛、魚なども食べます。トラの大きさは、200cmにもなり、尾は100cmにもなります。体重は200kgにもなります。トラは、オシロイバナを好みます。

紹介文の構成:

- はじめ:** トラは前まで十萬頭だったのに三千二百頭までへってしまったから私たちがせきになんもってふやさないといけない。
- 中:** 「中」には、線を引いた情報等をまとめて動物の紹介を書いている。
- 終わり:** 書いたことでみんなに知ってもらえたらしいです。トラをふやす活動も行ってきているので、どんどん増えていってほしいです。

題名: トラの生活、絶滅しそうな理由

図8 集めた情報と整理・検討して明確にした思いを基にして紹介文を書く

紹介文の「はじめ」「おわり」には、情報シートの「考えたこと」欄の明確になった「思い」を基にして文章を書いていた。それは、情報を整理・検討することにより、伝えたい「情報」と明確になった「思い」とのつながりが確認できて、思いが具体的で明確になったためと思われる。「中」には、調べた情報を使い動物の紹介をまとめることができた。伝えたい情報を選択する過程におい

て、伝えたい情報に線を引いたことは、必要な情報を焦点化する上で有効であったと考える。「おわり」には「考えたこと」欄の明確になった「思い」を基にして、絶滅しないでほしい、守ってほしいという願いや、初めて知って驚いたという発見やみんなに伝えたいという思いが書かれていた。また、情報シートには書かれていない新しい思いが表れることもあったことから、情報シートを基に文章を構成していく中でも整理・検討が行われ、伝えたい思いがより具体的で明確になっていくことが分かった。

このように、複数の情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄の「情報」や明確になった「思い」を照らし合わせながら整理・検討し文章構成を考えることにより、伝えたい思いがより明確になることが分かった。その過程では、「情報」と「思い」の間を行ったり来たりしながら考え、「思い」が「情報」を得ることにより具体的で明確になっていくことが分かった。

4年生のアンケートにおいて、「図書で調べたことにより、伝えたいことが詳しく書けたか」という質問に、よく書けた、だいたい書けたと肯定的に答えた児童が98%いた(図9)。複数の情報を図書から集め、整理・検討することにより伝えたい思いが明確になったことが、詳しく書けることにつながったと思われる。また、本で調べてよかったことの自由記述欄には「分からなかったことが理解できた」「たくさんを知った」「詳しく分かった」などと書かれていた「紹介文が簡単に書けた」という記述もあり、情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄の記述が書くことを構成する材料となったことで文章として表しやすくなったことが分かった。

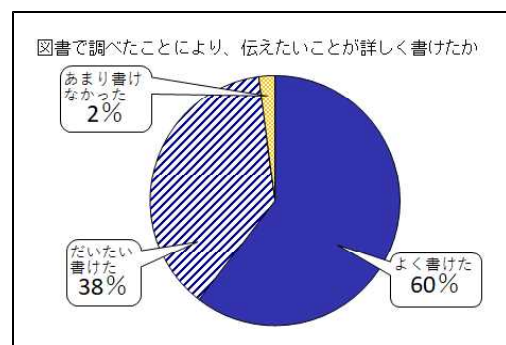


図9 情報の活用についての分析(4年)

(3) 抽出児童の様子から

以下の表のように、抽出児童A、Bは情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄の記述を使って紹介文を書けた。抽出児童Cは「調べたこと」は使ったが「考えたこと」は使っていなかった(図10)。これは、情報を選択する際の整理・検討で思いとのつながりが明らかにならなかったためと考えられる。その原因の一つとして、十分に情報が集められなかったことが挙げられる。このことから、思いを明確にするためには、複数の情報を集めて整理・検討することが必要だといえる。

抽出児童	「調べたこと(情報)」の欄を紹介文に使えたか	「考えたこと(思い)」の欄を紹介文に使えたか	図書で調べたことにより、伝えたいことが詳しく書けたか(アンケート)
A	2枚の情報シートの情報を使っている	2枚の情報シートの明確になった思いを使っている	だいたい書けた
B	2枚の情報シートの情報を使っている	2枚の情報シートの明確になった思いを使っている	よく書けた
C	1枚の情報シートの情報を使っている	使っていない ※図書で調べる前のライオンが好きだから書いたという思いを書いている。	だいたい書けた

図10 抽出児童の振り返り②

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- 学校図書館を活用して発達段階に合わせた図書館活用スキルを習得することにより、図書から必要な情報を採るようになった。学校図書館を情報センターとして機能させることにもつながった。

- 情報シートを活用し、図書から集めた複数の情報の中から伝えたい情報を選択し「比べて感想をもつ、比べて理由付ける、比べて関係付ける」考え方の視点に沿って整理・検討することにより、「思い」が「情報」を得て具体的で明確になった。
- 複数の情報シートの「調べたこと」「考えたこと」欄の記述を基にして、伝えたい「情報」と「思い」とのつながりを考えながら書く内容を構成することで、伝えたい思いをより明確にして表現することができた。

2 課題

- 調べ学習以外の、並行読書や関連読書など図書を活用した学習での情報シートを活用する方法を実践を通して明らかにしていく必要がある。
- 思いを表現する根拠となる情報を集める場面は「書くこと」の領域だけではないので、「話すこと・聞くこと」の領域での情報の収集・内容の検討・構成の検討の場面等で、学校図書館と情報シートの活用方法を実践を通して明らかにしていく必要がある。

Ⅷ 提言

- 「学校図書館」と「情報シート」を活用し情報を整理・検討する力を育てることは、伝えたい思いを明確にして表現する力を育てるために有効であると考えます。
- 図書館活用スキルを習得するために、小学校6年間を見通して学校図書館で学習する時間を計画的に設けることは、必要とする図書や情報を集める力を育てるために有効であると考えます。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』 (2018)
- ・小笠原 喜一 編集 『総合教育技術11月号』 小学館 (2017)
- ・水戸部 修治 岩崎 淳 編集 『実践国語研究346号』 明治図書 (2018)
- ・植松 雅美 編著 『単元を貫く言語活動を支える並行読書の授業プラン』 東洋館出版社 (2015)

<担当指導主事>

尾形 一美 坂本 直之

